

笑顔で子育てできる支え合いネットワークづくり事業

事業主体 名称：片上自治会協議会

住所：備前市西片上 64

事業実施場所 備前市片上地域

～事業を始めるにあたって～

①片上地区全体で連携できる組織づくり

②片上地区の財産を活用した世代間交流イベントの実施

③片上地区では「催事、福祉、教育」の3つ基本テーマがあり、子ども・親・祖父母の3世代がその趣旨に沿った事業を展開していく

～事業実施内容～

体験型交流等事業

<第1回>

①事業名 簡単科学工作「イカ飛行機づくり」と宇宙の話

②参加人数 総数 28名 子ども園・小学生 10名、保護者 8名、高校生 3名、講師他スタッフ 7名

③日時 令和2年8月30日(日) 11時から14時30分

④場所 片上みらい食堂

⑤内容 講師：元緑陽高校で現在玉野高校教諭の藤田先生(物理専門)

内容：ヒューストンスペースセンター体験の披露、やさしい流体力学の話と簡単科学工作「イカ紙飛行機づくり」のワークショップ、コロナ禍で自粛を強いられている時、未来を考えるきっかけづくりのために子育て世代との連携交流会を開催した。



「子育て世代との連携交流会」
藤田さんと宇宙の話
場所：片上みらい食堂
(備前市西片上1337)
8月30日(日)
AM11:00～PM4:00
参加費：1000円
(高校生以下500円)
(ソフトドリンク、軽食含む)
限定20名です。参加希望の方は
8月26日(水)までにお申し込みください。

片上地区内のパン作りなどでお世話になった藤田孝典先生(元緑陽高校、現在玉野高校教諭)がヒューストンスペースセンターに行かれたそうです。コロナ禍で新しい経験をさせていただきたいとご連絡を。藤田先生と一緒に宇宙に関心を抱ける機会を創出してみませんか？
午後の授業、授業内容の学びの後の交流の後、簡単科学工作「イカ紙飛行機づくり」ワークショップ、笑顔が溢れば野外で飛ばしてみたいと参加者、お母さん達と一緒に、大人も子どもにも楽しんでもらって、自由な発想で交流を楽しみましょう。
<終了後、参加費で500円から懇談会を予定しています。>

主催：片上自治会協議会
主幹：備前未来プロジェクト
申込/問合せ：TEL090-7270-3654(雑談)

備前市健康福祉課「笑顔で子育てできる支え合いネットワークづくり事業」

⑥活動の成果等

宇宙に視点をおいたワークショップを通じて子供たちの自由な発想力に拍車をかけることができたと感じた。

<第2回>

①事業名 子供と大人のふれあい武者行列

令和2年10月11日に岡山市にて予定していたが、主会場がコロナ感染予防のため中止。従って計画していた事業も中止となった。

<第3回>

①事業名

三十三観音巡りガイドブックの作成と真光寺周辺ファミリーウォーキング

②参加人数

総数70名 地域住民47名、親子1組（保護者2名、子ども1名）、スタッフ20名等

③日時

令和2年11月3日(火)

④場所

片上真光寺周辺

⑤内容

疫病退散ストーリーを描いた大型紙芝居「観音山のできるまで」を見たのち、コロナ終息を願いながら明治初年に模写された西国三十三観音の石仏巡りのファミリーハイキングを行った。



⑥活動の成果等

忘れかけていた地域物語に触れながら片上の歴史を掘り起こしに役立った。野外で行ったこのイベントに参加した高齢者はコロナで閉塞感があるこの時期に素晴らしいストレス解消になったと満足感が漂っていた。

<第4回>

①事業名 福祉餅つき

12月28日予定で準備を進めていましたがコロナ感染症の不安が高まり、やむなく中止となりました。

<第5回>

①事業名

城山ファミリーハイキング

②参加者数

総数87名 一般32名、親子9組（保護者13名、子ども20名）、スタッフ等22名

③実施日時

令和3年1月3日(日)

④実施場所

富田松山城城跡及び品川グラウンド

⑤内容

地域にある史跡を巡り新春を住民で祝う気持ちとコロナ禍による長引く自粛生活を吹き飛ばすべく山頂で校歌を歌い伸び伸びと手足を伸ばした。

⑥活動の成果等

参加者は 10 人ずつのグループに分かれて世話人のリードによってゆっくりと城山の頂上(209メートル)を目指して登った。頂上ではドローンを飛ばして記念の集合写真撮影を行った。

城山ファミリーハイキング
清々しい初春に、ご家族おそろいで参加しませんか

2021年
1月3日(日)

参加費無料 雨天中止

<当日のイベント内容>
午前9時 富原郡山城山の口に集合
受付開始
午前9時 城山頂上(天乳)に到着
新年を祝って健康体操
富原北小の児童発表会
<ドローンによる撮影等実施>
午前10時30分 下山開始
午前11時 麓出口に到着
お弁当タイムで新年の挨拶と一緒
ぜんぜんお楽しみ会、新年を祝います。
備前：楽しいイベントを体験中！

主催：主催
富原郡の北の森環境事業部(下志木で電話でお申し込みください。)
富原市の福祉推進課(片上認定こども園園舎)より、(関係者入札可)
連絡先：0866-84-9137 (かたかみ夢袋) 0243
富原市福祉推進課(片上認定こども園)より、(関係者入札可)
連絡先：0866-84-9137 (かたかみ夢袋) 0243
〒719-0201 富原市片上 1-1-1
〒719-0201 富原市片上 1-1-1
〒719-0201 富原市片上 1-1-1

主催：主催
富原ファミリーネットワーク実行委員会・片上北小児童会
(ドローン撮影協力) 富原北小
→備前市民病院(写真)で取ってもらえる楽しいプリントサービス



<第6回>

- ①事業名 新春子どもイベント
- ②参加者数 総数 48 名 地域住民 4 名、ユートピア利用者 5 名、保母 3 名、子ども 36 名
- ③実施日時 令和 3 年 1 月 22 日(金)
- ④実施場所 かたかみ夢袋駐車場、片上認定こども園園舎
- ⑤実施内容 シイタケ菌の植え込み作業 40 本
- ⑥活動の成果等

前日になり園長よりコロナ感染症を懸念して参加不可能との返事があり、当日は地域スタッフで植菌作業を行いユートピア（障害者施設）利用者と共に甘酒を食しました。その後、こども園に植菌済みのしいたけ原木を持込んでシイタケの育て方を子供たちに教えて楽しいひと時を過ごしました。(2年後の収穫可能)



地域ぐるみ会議の開催

会議名 地域ぐるみ会議の開催

<第1回>

- ①参加者数 総数 11 名 自治会役員 4 名、まちづくり会議関係者 3 名、保護者会 2 名、民生委員 2 名
- ②実施日時 令和 2 年 9 月 22 日(火) 午後 6 時から 7 時 30 分
令和 2 年地域活動の実施方法の協議と当面の事業への取り組みについて
- ③実施場所 片上支え合い広場会議室
- ④実施内容

各団体から推薦された委員が集合し、11 人全員が県民局委託事業に世話人として関わることを承諾

・地域活動の実施方法の協議について

予定する実施事業の概略を説明する（一部、コロナで変更を余儀されるものもあり、詳細は今後、状況に応じて協議とすることにした）。

・協議した事業：真光寺周辺ファミリーハイキング、福祉餅つき、城山ハイキング、新春子供イベント

スタッフ募集が必要なイベントは出来る限り実行委員会形式とし、各団体からの応援の依頼がしやすい形態をとることとした。

実行委員会が前面に出る事業には自治会組織（片上地区自治会協議会）は共催団体として実施していくのが調和がとれてよいのではとの意見があり、県民局の意向を聞くこととした。

⑤活動の成果等

コロナの不安や感染対策を取る必要性が確認され、活動方針を共有。世話人として新しく加わった委員もおり、ネットワークを広げることができた。

<第2回>

- ①参加人数 総数 8 名 自治会役員 4 名、まちづくり会議関係者 3 名、民生委員 1 名
- ②実施日時 令和 3 年 1 月 22 日（金）
- ③実施場所 片上みらい食堂
- ④実施内容 活動の振り返りを行った。
- ⑤活動の成果等

コロナで中止を余儀なくされたものもあったが、実施された企画は好評で事業実施の意義を確認できた。

また、過去に地域で様々な催しが企画され、協力する中で培われてきたものが、現在のコロナ禍においても絆としてつながっていることを再確認することができた。

～事業を終えて～

○事業実施による効果

コロナのため中止となる企画もあったが、計画遂行にあたって「地域ぐるみ会議」を行うことで、地域のつながりを広げ、より強くすることができた。

地域の歴史文化に詳しい方と事業を企画することで、地域の歴史文化について、改めて知り、地域に広める機会を持つことができた。さらに、ファミリーハイキングという形で親・子・孫と多世代が交流しながら、実際に歩いて、地域の歴史文化に触れ親しむことができた。

コロナ禍の中でも、地元のつながりを大切にしながら次世代へ繋げていける事業となった。

○今後の課題・展開

コロナ禍の中で、人と人との繋がりを持つことの大切さはより大きく強くなったように思う。感染対策を取りながらの企画運営、状況に応じた開催内容、開催方法の変更工夫が必要だと感じた。

また、コロナ感染防止の観点から、オンラインでの会議やネット配信、入院中のオンライン面会など、非対面式の交流も求められるようになってきた。

高齢者が苦手とするスマホやパソコン利用も若い世代は楽に使いこなしている。世代間交流の機会を作ることで、若い人には古くからの歴史文化を伝え、高齢者は新しいつながり方もできるようになる。

社会情勢の変化があり、恒例の祭り等が開催できなくなった場合でも、次世代に地域文化をつないでいく事業が継続していけたらと思う。

○まとめ

コロナ禍で、従来行われてきた行事（チョイヤサ、盆踊り、餅つき等）は中止となったが、城山や三十三観音など、片上地区の歴史文化という財産を巡るイベントは開催することができた。

イベントでは、子ども・親・祖父母の3世代が参加し、世代間交流となり、次世代に歴史文化をつないでいくいい機会となった。